



# Weekly Market Report

Sep 12, 2022

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

日米金利差の拡大がドル円相場の押し上げ材料となるが、ボラティリティの高い展開は継続

### USD/JPY (1週間の値動き)



### コメント

先週のドル円相場は大きく上昇する展開。週初は140円台前半からの開始となったが、レイバーデー明けの起債増加で米国金利が急上昇したことに加え、予想を上回る米ISM非製造業指数の結果を受けてFRBによる利上げ加速への思惑が高まり、投機筋主導でドル買いが進行。ドリンデックスが110.78まで上昇したほか、ドル円相場も1998年以來となる144.99円の高値を付けた。木曜日に財務省・日銀・金融庁による3者会合の開催が報じられるとドル円相場は143円台前半まで下落、金曜日には日銀黒田総裁からの為替変動が急激であるとの発言を受けて一時141円台まで下落する局面もあったが、その後は反発して142円台で越週している。今週のドル円相場もボラティリティの高い展開か。引続き日米金融政策スタンスの違いを受けた金利差の拡大がドル円相場の押し上げ材料となるが、中国におけるロックダウンの拡大など世界的な景気後退懸念が上値の抑制要因となってきた。経済指標では8月の米消費者物価指数に注目。(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
9/13(火)	(米国) 8月消費者物価指数 (前年比)	8.1%
9/14(水)	(米国) 8月卸売物価指数 (前年比)	8.8%
9/15(木)	(米国) 8月小売売上高 (前月比)	0.0%
9/16(金)	(中国) 8月小売売上高 (前年比)	3.2%
9/16(金)	(米国) 9月ミシガン大学消費者態度指数	59.5

### USD/JPY (5年間)



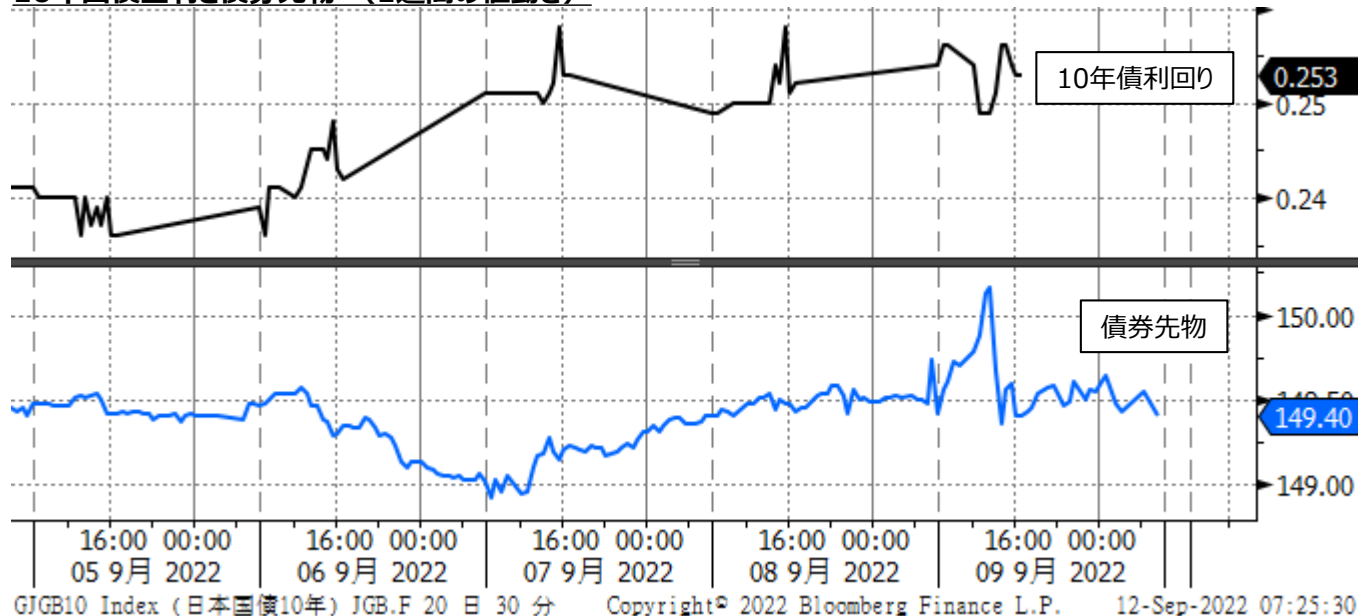
### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
三原大希	140.90 - 145.50	米CPIに注目。強い結果であればインフレへの更なる対策が見込まれ直近高値の144.99円を超えて更にドル高に進むか。
鈴木万里子	140.70 - 143.90	13日発表の米CPIに注目。市場予想を大幅に下回ればインフレピークアウト観測の裏付けとなりドル安に傾くか。

## 2. 円金利相場概況

海外中銀の利上げにより円長期金利は再び0.25%近辺へ。今週は米国CPIに注目。

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



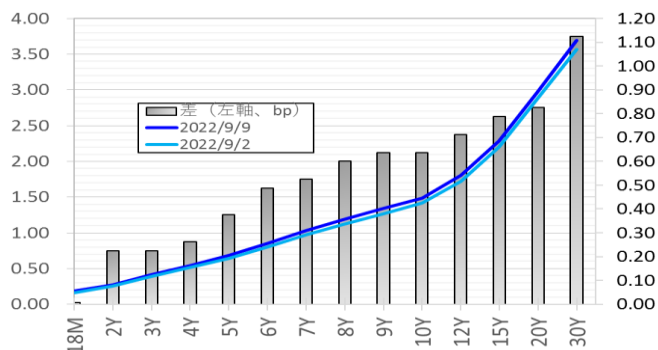
(出所) Bloomberg

### コメント

先週の10年国債利回りは0.23%後半～0.25%後半のレンジで推移。週初は米国休場で、前週末とほぼ同水準で静かにスタート。火曜日に、休場明けの米10年国債利回りが豪中銀の+50bpの利上げや堅調な米ISM非製造業指数などにより、前週末から+16bp近く上昇し、翌水曜日の10年国債利回りは織り込む動きで+1bp程上昇。木曜日はECBの+75bpの利上げとパウエル議長のインフレ抑制への意欲的な発言などで米10年国債利回りは再び3.30%超まで上昇し、翌金曜日に黒田総裁が為替につき言及したものの、10年国債利回りへの影響はほとんど無く、週末にかけて日銀指値オペ水準の0.25%近辺で推移して引けた。

今週は火曜日に5年債、木曜日に20年債の入札が予定されている。海外指標は注目の火曜日の米CPIの他、水曜日に米PPI、木曜日に米小売売上高が予定されている。10年国債利回りは引き続き0.25%近辺での推移を予想する。(市場営業部/正村)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 10年円金利スワップ推移（5年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
加藤祐樹	0.235% - 0.25%	13日の米CPIに注意が必要だが、円金利は上限の0.25%近辺で推移する展開を予想。15日の20年債入札も注視したい。
伊豆浦有里恵	0.23% - 0.25%	今週も米長期金利や日銀動向などを睨みながら、日米とも長期・超長期金利は高水準でもみあう展開を予想。

### 3. 今週のトピックス

#### 豪州ドル相場動向

#### 豪州中央銀行による金融政策と豪ドル動向

##### 9月RBA金融政策決定概要

9月6日の豪州準備銀行（以下RBA）の理事会では、市場予想通り政策金利を、1.85%から2.35%へ0.5%引き上げることが決定。RBAはインフレに対応するために継続利上げ中であり、5月以降、5会合連続の利上げとなる。9月6日に発表された声明文では、今後についても向こう数カ月にわたって利上げを続ける姿勢が示されたものの、「どのようなペースでどこまで利上げするかは今後得られるデータやRBAの物価・雇用の見通し次第」との発言があり、市場では、次回10月の理事会でも0.5%の利上げが続くとの見方と、0.25%に縮小するとの見方で分かれており、引き続き今後のインフレ動向、賃金指数等の指標に注目が集まる。

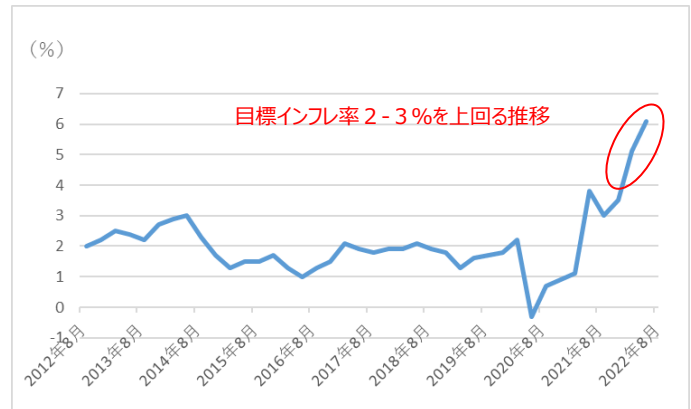
##### 豪州経済動向

豪州統計局（ABS）によると6月の消費者物価指数（以下CPI）前年同月比6.8%の結果。4月は+5.5%、5月は+6.2%であり、豪州のインフレ率は上昇トレンドであることから、今後数カ月でさらに上昇して年内にピーク（7%台）を迎えると見られている【図1】。また9月7日に発表した第2四半期の豪州実質国内総生産（GDP）は前期比0.9%増加。新型コロナウイルスの規制が緩んだことで宿泊・飲食サービス等の家計消費が拡大したことや、不安定なウクライナ情勢を発端に世界各国でエネルギー需要が拡大する中、ロシア産の代替需要として石炭、鉄鉱石等資源価格の押し上げにより輸出が好調に推移した事が要因と考えられる。なお年始から米国、欧州等、世界的にインフレ基調が続いていることから各国の10年債利回りも上昇基調となっていることが確認できる【図2】。

##### 豪ドル動向

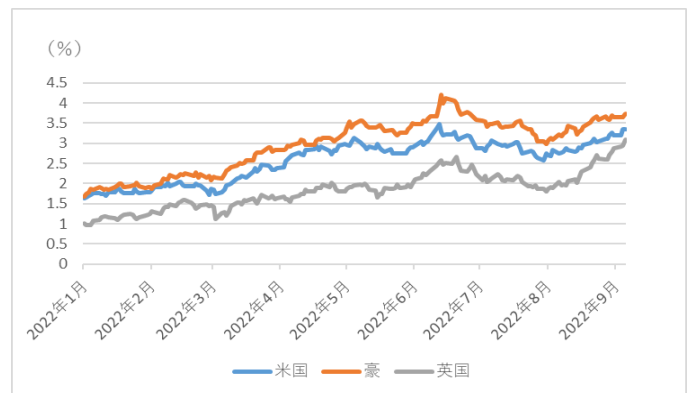
資源価格の高騰、インフレ圧力が高まる中、最大貿易相手国である中国の景気後退懸念は豪州経済にとって景気下振れの懸念材料と見られる。中国国家统计局が発表した8月のCPIは前年同月比2.5%上昇も伸び率は7月から0.2ポイント縮小。新型コロナウイルス対策の為、厳しい行動制限が継続される中、家計消費が伸び悩んだ。足元の豪ドルは対円では2015年以來の97円台となり上値トライの動きが継続。対米ドルでは断続的な利上げによる景気後退懸念を受け、上値の重い展開が続いている。豪ドルは引き続き中国の景気動向、資源価格の動きに左右される展開が続くものの、RBAは、インフレ抑制のために今後も継続した利上げを示唆しているため、底堅い展開を予想する。（市場営業部/山下）

【図1】消費者物価指数（CPI）の推移



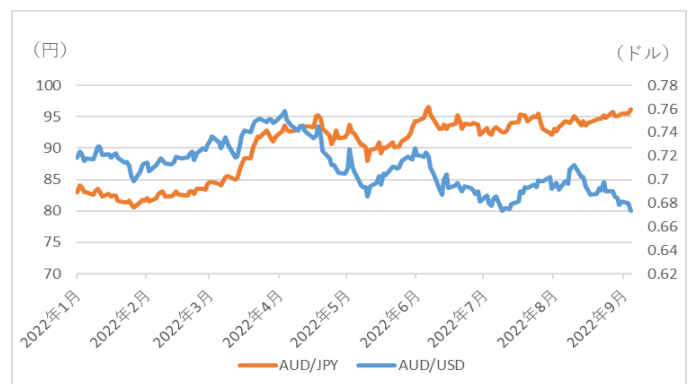
(出所：Bloomberg)

【図2】各国10年債利回り



(出所：Bloomberg)

【図3】対円、対米ドル推移



(出所：Bloomberg)

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会